



## はじめに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 足立, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/9974">http://hdl.handle.net/10466/9974</a>

## はじめに

女性学研究センター第7期連続講演会は、「不況の中で女性たちは今－政策と展望」と題して、現在日本の経済不況のもとで、女性の働き方や生活がどのようなものとなっているのかについて考えました。1990年代の日本経済は「失われた10年」などと呼ばれるほどに、バブル崩壊以降、現在にいたるまで、深刻な状況に陥っています。今回の不況による男女双方での「失業率」の上昇が報告されていますが、女性の働き方や生活は男性とは異なる方法で、男性以上に過酷な影響を受けていることを明らかにできたと思います。

このような状況において、ワーク・シェアリングという新しい働き方に注目が集まっていますが、これが企業側の人件費の節減というねらいに絡め取られることなく、働き方そのものを見直していく契機としていくことが必要です。

日本における男女のおかれた経済的条件の大きな格差は一向に改善されず、不況をのりきるために女性の安価で不安定な労働が一層利用されていくことを看過せず、地域に根差した、差別のない、新たな社会を共に構想していくために、この連続講演会は多くの有効な論点を提供できたのではないかと自負しております。

2002年度より、足立眞理子が女性学研究センター主任研究員として着任しました。今期の連続講演会・連続セミナーは、足立の専門である経済学、社会政策に焦点を当て、第一線の研究者の皆様に講義いただくことができました。不況の進行する今日とりわけ、女性のおかれた経済的状況をしっかりと認識することの重要性はいまさら申し上げるまでもありません。積極的に参加され、熱心に討論していただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

大阪女子大学 女性学研究センター 主任研究員  
足立 眞理子